

資料

# 小学生向け公開講座へ支援者として参加した 学生の栄養士として就職する意識への影響

橋本（内藤）聖子<sup>1)</sup>, 松元祥子<sup>2)</sup>, 猶塚やよい<sup>3)</sup>, 日開樹理<sup>3)</sup>, 松田理佳<sup>3)</sup>, 津村有紀<sup>1)</sup>,  
宅間真佐代<sup>4)</sup>, 都築廣久<sup>4)</sup>, 下村久美子<sup>4)</sup>

## The influence of participation as a supporter in public lectures for children on students' employment awareness

by

Seiko NAITO-HASHIMOTO, Shoko MATSUMOTO, Yayoi NAOTSUKA, Juri TANAKA, Rika  
MATSUDA, Yuki TSUMURA, Masayo TAKUMA, Hirohisa TSUZUKI,  
and Kumiko SHIMOMURA

### 1.はじめに

本学では、栄養士養成施設として地域住民の健康づくりに寄与するため公開講座を実施している。「純真食育講座こどもの輝く未来に！！」と題した本講座は、児童の健全な心身の発達と食への意識、関心を高めることを目的とし、コロナ禍にあった2019年～2022年を除き、2009年夏から現在まで開催されている。この講座は、児童が調理実習に挑戦する「クッキングにチャレンジ」と、食に関する科学実験に挑戦する「サイエンスにチャレンジ」とに分かれており、それぞれに学生が「支援者（小学生への指導者）」として関わっている。具体的には、「クッキングにチャレンジ」では、手洗いの衛生や食材の計り方、調理中の安全面まで、十分な注意を払いながら児童たちと共に調理を行い、時間内に喫食できるように支援している。一方、「サイエンスにチャレンジ」では、実験に使用する食材や薬品

---

受理日：令和6年1月30日

- 1) 純真短期大学食物栄養学科 准教授
- 2) 純真短期大学食物栄養学科 助教
- 3) 純真短期大学食物栄養学科 助手
- 4) 純真短期大学食物栄養学科 教授

の仕分け及び実験器具の使い方などの実演を行い、児童がスムーズに実験を遂行できるよう支援をしている。

同様の地域貢献公開講座は、全国の大学でも展開されており、学生の能動的な学習の場としても活用されている。本学でも、学生の学習成果を確認できる貴重な場として展開してきており、これまで、同様の公開講座についてアンケートをとり、学生の学習成果を計ってきた。しかし、それをまとめた報告はなく、公開講座への参加意義を確認できたことはない。本学は栄養士養成施設であり、学生は卒業後、栄養士として人々の健康に資する立場となるものも多い。そこで今回、小学生向け公開講座に支援者として参加することで、学生の「栄養士として就職したいか」に関する意識がどのように変化するかを調査し、まとめたので報告する。

## 2.方法

### 1) 開催日時および場所、小学生の参加人数

令和5年8月22日(火)10:00より、小学生向け公開講座「純真食育講座こどもの輝く未来に!!」と題し、「クッキングにチャレンジ」は短大棟4階調理実習室にて、「サイエンスにチャレンジ」は同5階理化学実験室にて実施された。参加した小学生の人数は、クッキングにチャレンジが29名、サイエンスにチャレンジが30名であった。

### 2) 対象者

本講座に支援学生として参加した純真短期大学食物栄養学科2年生(66期生)17名のうち、公開講座開始前には15名、終了後には17名の回答が得られたが、どちらのアンケートにも回答し、かつ、重複回答でなかった14名を本報告の調査対象とした。

### 3) 回答方法

Microsoft365のアプリケーションMicrosoft Forms(Microsoft社)を用い、公開講座実施前と終了後にそれぞれ、Web上にてアンケート調査を行なった。どちらのアンケート調査画面のトップにも以下の文章を掲載し、アンケートの回答は学生の自由意思のもとで行わせた。

「公開講座および栄養士としての職に関するアンケートにご協力ください。なお、このアンケートの集計結果は、個人情報情報を隠した形で統計データ化し、論文として利用いたします。アンケートの回答をもって、論文への利用に承諾したことといたします。」

## 3.結果および考察

### 1) 開始前

「今日の講座は楽しみですか」という問いに対する学生の回答は、図1の通りであった。全体の93%の学生が楽しみにしている旨の回答をした。

「普段、小学生と関わることはありませんか」という問いに対する学生の回答は、図2の通りであった。全体の71%の学生が関わることはない旨の回答をした。

これらの結果から、対象者は、小学生に普段接するチャンスがない状況であるものの、講座の支援者として参加することを楽しみにしていたことがうかがえた。

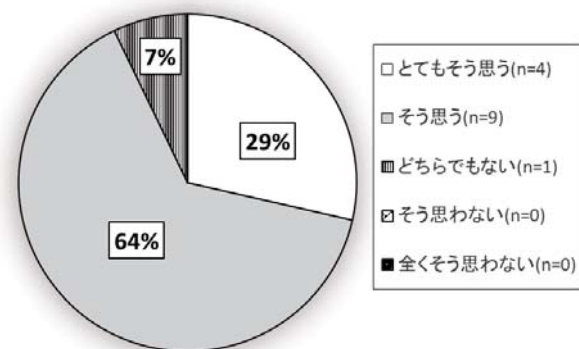


図1. 「今日の講座は楽しみですか」に対する学生の回答とその割合(n=14)

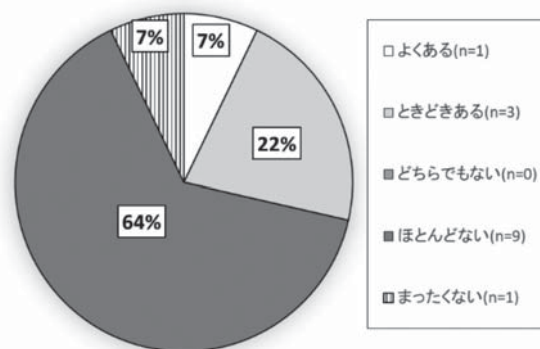


図2. 「普段、小学生と関わる機会がありますか」に対する学生の回答とその割合(n=14)

## 2) 終了後

「今日の経験は、今後の人生（仕事や生き方）に活かすことが出来ると思いますか」という問いに対する学生の回答は図3の通りであった。全体の93%の学生が肯定的な回答をし、本公開講座への学生支援者としての参加は、学生のキャリアプランなどに対し、概ね良い影響を与えることがうかがえた。

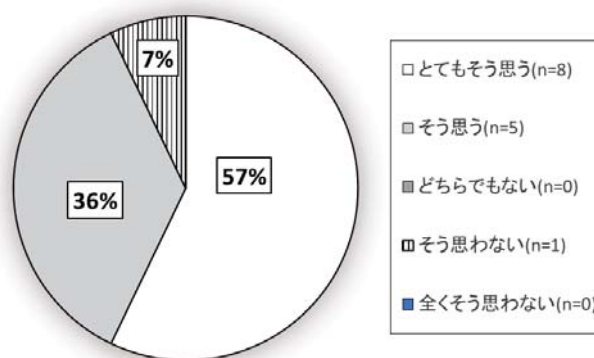


図3. 「今日の経験は、今後の人生(仕事や生き方)に活かすことが出来ると思いますか」に対する学生の回答とその割合(n=14)

## 3) 栄養士資格に関する問い（開始前と終了後の変化）

「栄養士として就職したい」という気持ちは、現在、どのくらいですか（表1）、「栄養士資格を活かしてみたい」という気持ちは、現在、どのくらいですか（表2）という問いに対する学生の回答は、以下の通りであった。

表 1. 「栄養士として就職したい」という気持ちは、現在、どのくらいですか(数値は%)、に対する学生の回答

	学生 A	学生 B	学生 C	学生 D	学生 E	学生 F	学生 G	学生 H	学生 I	学生 J	学生 K	学生 L	学生 M	学生 N
開始前	100	100	100	100	100	100	90	90	70	70	50	50	50	10
開始後	100	100	100	100	100	100	90	80	80	70	70	50	50	10

表 2. 「栄養士資格を活かしてみたい」という気持ちは、現在、どのくらいですか(数値は%)、に対する学生の回答

	学生 A	学生 B	学生 C	学生 D	学生 E	学生 F	学生 G	学生 H	学生 I	学生 J	学生 K	学生 L	学生 M	学生 N
開始前	100	100	100	100	100	100	90	80	50	90	50	50	50	50
開始後	100	100	100	100	100	100	90	70	60	90	80	50	50	50

公開講座開始前に 100%の強さで「栄養士として就職したい」、「栄養士資格を活かしてみたい」と回答した学生 A～学生 F の気持ちは、公開講座後も変化することはなかった。よって、本講座への学生支援者としての参加が、栄養士としての就職に強い希望を抱

いている学生の意欲減退に影響を与えた可能性は少なかったと推測できる。

なお、アンケート最後に設けた「今日の公開講座に参加して、どんなことが身につきましたか。または、学びましたか。」という自由記述欄には以下のことが回答（原文のまま）されていた。

・1人で4人の子を担当するのは大変でしたが、わかりやすく説明する力やコミュニケーション能力が身に付いたと思います。

・教えることの大変さや、実験を通して学べること

・教え方が身につきました。

・普段子どもたちと関わるのが少ないのでどう接すれば良いか分からなかったけど、楽しくお話ししながら実験を進めることができました。

何れも、本講座を通して「何かを学べた」ことがうかがえる。

学生Iならびに学生Kの「栄養士として就職したい」「栄養士資格を活かしてみたい」気持ちの割合は、開始前よりも終了後に上昇していた。前述の由記述欄には、言葉遣いに気を付けて取り組むことが出来た旨、安全性に留意して出来た旨の記述がなされてあった。このような「出来た」感が、さらなる意識の向上につながったものと推測される。

一方、学生Hはどちらの問いに対しても、開始前の気持ちより終了後の気持ちの方が低い値を示した。前述したアンケートの最後にある自由回答欄には未記入であったため、どのようなところが意欲の減退につながったか不明であった。

以上のことから、小学生向けの公開講座に学生支援者として参加することは、学生の栄養士として就職する意欲を妨げない、あるいは、意欲の向上につながる可能性がおおむね、推測された。一方で、意欲減退が見られた学生もおり、今後、同様のアンケート調査を行う際には、それぞれの問いに対する自由記述欄を設けるなどをし、原因の究明をするとともに、さらなる学生の栄養士としての就職に対する意欲向上を図っていきたい。